

「無意識の偏見に気づく」 1月号

～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

みなさんは、人権や差別について日頃どのくらい意識していますか。また、意識するのはどんなときでしょうか。

自分の発言やブログに批判を受けた人が謝罪する際に「悪気はなかった」「差別意識はなかった」「言葉遣いに気をつければ良かった」と、悪意や差別の意図はなかったという言葉をよく聞きます。しかし、この言葉には大きな問題が潜んでいます。それは、本人に自覚がなかったという点です。悪気なくかけた言葉が相手に不快感を与え、人間関係を悪化させ、時に差別につながることもあるばかりでなく、無意識であるため、本人に自覚がなく問題に気づきにくいという点です。

私たちは、毎日誰かと顔を合わせ、言葉を交わして生活しています。

中には相手の何気ない言葉や態度で嫌な思いをすることもあります。同じ言葉でも、相手によっては元気をもらったり、つらい思いをさせたりすることがあります。

私たちが日頃使っている言葉は「明るくて温かい人の心を和ませ、意欲を促す言葉」と「暗くて冷たい人の心を傷つけ、やる気をそぐ言葉」の2通りに大別されます。みなさんは、どちらの言葉をかけてほしいですか。どちらの言葉を使っていますか。人と人とを心地よくつなぐ、そんな言葉を選んで使いたいものですね。

誰もが大事にされ、暮らしやすい社会は、まずはそれぞれの中にある無意識の偏見に気づくことから始まるのではないのでしょうか。自分の言葉や行動で傷つけている人がいないか、嫌な思いをしている人はいない

か、意識してみませんか。そういう自分に気づき始めたら、少しずつでも変わっていくのではないのでしょうか。そんな日々の行いが、人権を尊重する社会の実現につながっていくのだと思います。

